

豊能町総合まちづくり計画 将来像案

案1) とよのにすむ、すみつづける、すきになる。

本町では、人口減少が進んでおり、このまま人口が減り続ければ、30年後には1万人を下回ると考えられています。人口が減り続ければ、仕事をする人も、地域で活動する人も、将来を担う子どもたちも減っていくこととなり、結果としてまち全体の活力が失われてしまうこととなります。

そのような将来にならないためにも、本町では「多くの人にまちの魅力や良さを知ってもらい、住んでもらう」ことと、「今住んでいる人、これから住む人にまちの魅力や良さをもっと知ってもらい、ずっと住み続けてもらう」ことの、2つの取り組みが極めて重要です。

この、「すむ」「すみつづける」ためには、ただまちの魅力や良さを発信するだけでなく、町内外の人にまちの魅力や良さを実際に感じてもらう、本町のことを「すきになってもらう」ことが大切です。

そのためには、各行政分野の取り組みを充実させ、住みやすいまちづくりを推進することで、子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくりを進め、多くの人にとって「すきになってもらう」ことができるまちを目指します。

案2) 豊かなみどりと人が織りなすまち とよの

本町の大きな魅力として、「みどり」と「人」があることは、前回計画策定時から上がっており、今回のアンケート調査や庁内検証などにおいても、魅力としてあがっていることから、豊能町にとって不変的な魅力であると考えられます。

本町は町の大部分に自然が広がっており、大阪府屈指の「みどり」が豊かなまちです。今後、社会が変わっていき、本町の在り方が変わっていくと、この「みどり」を大切にすることは、不変的であらねばなりません。

また、本町の人のはつながりや交流を大切にし、豊かな人間関係を築くことができるということが、住民の声としてあがっています。人口が減っていく中で、この「人」のつながりを大切にすることが、活気あるまちづくりのために欠かせなくなってくると考えられます。

このことから、本町を「豊かなみどりと人」とし、それらがあわさることで、自然と人が調和した、すばらしいまちを「織りなす」ことを目指して、上記の将来像を設定します。

案3) 自然に抱かれたスマートシティ とよの

本町では、大阪府の中でも特に豊かな自然に囲まれている一方で、ベッドタウンとして住宅街の一面もある、住み良いまちです。しかし、近年は人口減少が進んでおり、このままではまちの活気が失われ、時代に取り残されていく可能性が高いと予想されます。

本町では、今後積極的に民間企業や大学との連携を図り、ICTの活用や、自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組んでいくことを考えています。また、大阪スマートシティ戦略のモデル都市として、スマートシティ化にも取り組んでいきます。

こういった、先端技術をまちの中に取り入れていくことで、人口が減少しても便利で安心な暮らしを保障する、そして時代に先駆けた取り組みを積極的に推進できる環境を作ることができます。その上で、本町が有する豊かな自然と共存をしていくことで、自然に囲まれながらも、最先端のスマートシティであるまちを目指します。

案4) 未来に輝く里山タウン とよの

本町は、町内東側を中心に妙見山を中心とした山々が広がっており、豊かな自然に囲まれた「里山」と呼ぶべき姿を持っています。一方で、ときわ台を中心に、ベッドタウンとして住宅街が広がっており、「街」としての側面も持ち合わせています。

これらの特徴を有していることから、本町は自然と街の2つの性質を兼ね備えた、「里山タウン」であるということが出来ます。そして、この魅力を活かしながら、自然と共存しつつ、利便性があり、活気あふれるまちづくりを続けていくことが必要です。

そのためには、自然や環境を守ることとあわせて、人口減少にも耐えうる地域づくりや、外からも人が来てもらえる産業・観光基盤の形成、そして、住民が互いに支え合いながら暮らしていくことができる地域づくりに取り組み、未来で輝くまちづくりを目指すことが大切です。

そして、10年後、あるいはその先の未来、本町が豊かな人とみどりに囲まれ輝いている「里山タウン」となっていることを願い、上記の将来像を設定します。